

令和5年度 金光大阪中学校・高等学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

建学の精神	「人はみな神の氏子である」という金光教祖の広大かつ自然な教えにもとづき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う
教育理念	「人間平等」「個性尊重」「心を育む」教育の実践 朝の祈りの成就 朝の祈り ＜朝の祈り＞ ・限りない天地のみ恵と 父母をはじめとする人類社会の恩恵に 深い感謝と喜びの心をもたせてください。 ・心身ともに健やかに 礼儀と規律を重んじ より良い習慣を身につけさせてください。 ・新たな勉学への意欲をもって 真実を学び求め 大切などころを分かってください。 ・共に思いやり、助け合い、信じ合って、明るく豊かな学校生活を送らせてください。 ・どんなに辛い苦しいことに出会っても 負けることなく元気な心で生き抜く力を与えてください。 ・人、物、時間を大切にし 少しでも世と人の助かるお役に立つ人間にならせてください。

2. 中期的目標

1. 豊かな人間性の育成	建学の精神に基づき、「人間平等」「個性尊重」「心を育む」教育の実践 ア. 建学の精神に基づき、教育の主軸として、「人間平等」「個性尊重」「心を育む」を掲げ、宗教情操教育をはじめとする学校教育全般を通じて、互いの個性を認め、支えあう人間関係を作る イ. いじめ問題、差別問題、SDGs問題を生徒が自分の問題として考え、その解決を目指す力を育てる
2. 生徒の主体的な活動の推進と学校文化の醸成	ア. 学校教育全体を通して、自ら考え行動できる力を養い、自己肯定感を育む イ. 生徒会を中心とした学校行事の活性化 ※各行事終了後アンケートにおいて、「達成感」「満足感」項目 4.1 (75%) 以上を維持し、令和6年度には 4.2 (80%) 以上とする
3. 次代を生き抜く確かな学力の育成	ア. 学習成果が、生徒一人ひとりの進路の展望につながる授業を推進する イ. 自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、日常の教科学習への興味・関心を高める ウ. 希望進路、習熟度に応じた効果的な授業・講習の展開 エ. 生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な進路・学習指導の継続 オ. スタディサプリの導入で学習習慣の確立 ※生徒アンケート教科学習に対する「丁寧な対応」、「適切な授業レベル」、「教員の熱意」の肯定回答率 4.2 (80%) 以上、「向上への意欲」の肯定回答率 4.0(70%)以上を令和6年度に達成する
4. 「部活動に係わる基本方針」に則った部活動の推進	ア. 勝利至上主義に走らず、活動・経験を通じて各自のニーズに応じた豊かな学校生活の実現 イ. 生きる力の育成と心身にバランスのとれた人としての成長 ウ. 合理的かつ効率的・効果的な活動の推進 ※新入生の部活動加入率 80%、卒部率 90%以上としそれを維持していく
5. 異文化理解と多文化共生の考えを養う国際理解教育の推進	ア. 物価高騰、円安による CAN 海外修学旅行の見直し
6. 教員の指導力の向上	
7. 不登校生徒、学力不振による進路変更を生まない楽しい学校づくり	ア. 校内における居心地の良い場所の確保
8. 募集定員充足維持を目指した広報活動の展開	ア. 特待制度の継続と検証 (一部見直し) イ. 部活動推薦制度の推進 (本年度より中学生募集に導入)
9. 人事政策と人件費等の抑制計画	ア. 専任・準専任教員採用計画の実施 イ. 物品購入や修繕等について必要性を精査 ウ. 節約、節減の推進

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析
<p>全教職員 121 名より 12 項目 27 指標の回答を得た。結果 27 指標中、昨年度同様、「ややあてはまる」、「よくあてはまる」の肯定意見が 93.5%と高く、内訳は 23 指標が 90%を超える回答であった。しかし、「よくあてはまる」の回答は 71%とまだ改善しなければならない。その中で 10 項目の研修についての回答が B の判定結果であった。研修に関しては積極的な意見が多かったが、時間的余裕がないなど改善が必要である。</p>
学校評価委員会からの意見
<p>・評価項目 19 の「本校は、挨拶できることを大切にし、基本的な生活習慣の定着とマナー向上を図っており、登下校の指導も行き届いている。」との質問に対し「挨拶をしない先生がいらっしやると子供から聞く」とのご指摘を受けた。</p> <p>A・・・確かに挨拶できない教員がいるのは事実。したがって昨年度末と本年度始めの職員会議等で、全教職員に挨拶の徹底と丁寧な対応をするよう指示した。</p> <p>・評価項目 21 の「本校は、教育活動への理解と協力を得るために、学校発信の情報提供を行うと共に、保護者からの疑問や質問に答えている。」との質問に対し「学校行事等の連絡内容が保護者に伝わらないことがあると聞いている。」とのご指摘を受けた。</p> <p>A・・・現在は Sigfy を用いて、保護者に対してほとんどの連絡事項は配信している。過去に部活動の予定が分からないとご指摘があり、それ以降月単位の予定表を各顧問から配付するよう対応したと説明した。</p>

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 (豊かな人間性の育成)	<p>ア. 互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を作る。</p> <p>イ. いじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題とし、その解決を目指す力を育成する。</p>	<p>ア. 建学の精神に基づき、教育の柱として「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」を掲げ、学校教育全般において、互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を築く。</p> <p>イ. 年度始めの人権教育推進委員会において生徒への指導計画を作成。人権教育推進委員会やいじめ防止対策推進委員会を定期的開催し、生徒にいじめ問題、差別問題、SDG s 問題を一人ひとりの問題と考えさせ、その解決を目指す力を育成する。</p>	<p>ア. 学校が安心、かつ楽しい場所であることを再確認し、クラスメイト、部活動の仲間と良好な関係を築く。各自、校内で居場所があるようにする。また、学校生活アンケート9項目において「とても充実している」「充実している」と回答が 80%以上を目指す。</p> <p>イ. アンケート「いじめを受けた事がない」において、100%が「受けた事がない」と回答する。</p>	<p>ア. 学校生活アンケート 9 項目に対して、「不満」「やや不満」の回答が 3.7%である。しかし、「普通」との回答が平均 25%であることから、更に改善を図りたい。(○)</p> <p>イ. 令和 5 年度において、いじめアンケートからの報告事案は無し。しかし、人間関係の連れからのいじめ事案は少なからず起きている。今後、深く見守る必要がある。(○)</p>
化の醸成 2 (生徒の主体的な活動の推進と学校文化)	<p>ア. 学校教育全体を通して、自ら考え行動できる力を養い、自己肯定感を育む。</p> <p>イ. 生徒会を中心とした学校行事の活性化。</p>	<p>ア. 生徒主体の学校生活を更に推し進め、企画力を養い、達成感を高める。また、それらのキャリアパスポートを用い振り返らせ自己肯定感を養う。</p> <p>イ. 上記ア. の実現のためにも、今まで以上に生徒会活動を活性化させ、学校行事を通して生徒の人的成長を図る。生徒文化を積み上げ、将来の学校文化、伝統をつくる。</p>	<p>ア. キャリアパスポートにおける主体的に取組んだ項目を最低 3 項目/年以上挙げられるようにする。</p> <p>イ. 学校生活について、「満足度調査」を行い、満足度数 90%以上を目指す。 ・コロナ禍が緩和された後の文化祭の取り組み及び生徒主体による学年行事の充実。</p>	<p>ア. 1 年間を振り返り、概ね 3 項目以上目標が達成できている。(○)</p> <p>イ. 学校生活アンケートより「とても充実している」「充実している」が 72%と目標値には及ばない。「普通」との回答が 25%になるた</p>

				<p>め、更に改善が必要である。(○)</p> <p>・生徒主体による文化祭、学年行事が実施できた。(◎)</p>
<p>3 (次代を生き抜く確かな学力の育成)</p>	<p>ア. 学習成果が進路展望につながる授業を推進する。</p> <p>イ. 自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、授業への興味・関心を高める。</p> <p>ウ. 希望進路、習熟度に応じた効果的な授業・講習の展開。</p> <p>エ. 生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な進路・学習指導の継続。</p> <p>オ. スタディサプリの導入で学習習慣を確立する。</p>	<p>ア. 授業・講習、部活動の時間を精査し、生徒自身がタイムマネジメントの中で自学自習の時間の確保を図れるようにする。また、自らの意志で創意工夫をしながら学び続ける姿勢を養うため、自習室をはじめ、校内での自学自習環境を整え、授業との有機的な連携を図る。 LSコースにおける高大連携の充実。</p> <p>イ. 「すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、学校教育活動全般に亘ってキャリア教育を行う。自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、教科学習への興味・関心を高める。</p> <p>ウ. 学習意欲の高い生徒に対して、早朝・放課後の進学講習を実施し、さらに学力を伸ばしていく。</p> <p>エ. 定期的な面談に加え、日常的に生徒への進路・学習指導を行う時間の確保をする。</p> <p>オ. 本年度より、スタディサプリを導入し、更なる学習習慣の確立、すき間時間をより充実させ、進学意欲を高める。また、その取り組み状況の把握を行い、学習指導に活用する。学習面・部活動面ともに限られた時間を有効に使い、各々の目標が達成できるように教員が適切な指導を心掛ける。</p>	<p>ア. 学習習慣の確立。及び生徒アンケート「授業への集中」項目の肯定回答4.2(80%)以上。LSコースの希望者の一定数(40名)の確保を目指す。高大連携(関西福祉大学)し、授業内容の充実を図る。</p> <p>イ. 生徒アンケート各教科に対する「興味・関心」の項目において肯定の回答が全科目平均4.2(80%)以上。</p> <p>ウ. 教員が自己研鑽することのより、より質の高い授業展開することを心掛ける。授業アンケートからは「教員の熱意」「向上への意欲」4.45(90%)を目指す。また昨年を上回る進学実績を目指す。</p> <p>エ. 生徒との二者面談を毎学期2回以上行い、希望進路と学習状況を確認する。アンケートからは「丁寧な対応」4.2(80%)以上、「向上への意欲」の肯定回答率4.0(70%)以上。</p> <p>オ. スタディサプリ導入に伴い、授業アンケート「家庭学習をしていましたか」に関する項目の肯定回答が全科目平均4.0(70%)以上を目指す。</p>	<p>ア. 授業アンケートによる「授業への集中」は中高共4.4と高い数値を示している。LSコースは3年(42名)2年(32名)在籍。関西福祉大学との連携も順調で授業内容も充実している。(◎)</p> <p>イ. 授業アンケートによる「興味・関心」は中学4.0、高校4.1だが、高校3年単独では4.3と高い数値を示している。(○)</p> <p>ウ. 授業アンケートより「教員の熱意」「向上への意欲」は中学4.6、高校4.5と目標数値を達成できている。進学実績については、私立大学の合格者数は昨年度比1.5倍であった。(◎)</p> <p>エ. 懇談については定期的に実施できている。(◎)</p> <p>オ. 「家庭学習」については、中学3.7、高校3.9と目標数値に達せず、すきま時間の使い方の指導が必要である。(△)</p>

<p>4 〔部活動に係わる基本方針〕に則った部活動の推進</p>	<p>ア. 勝利至上主義に走らず、活動・経験を通じて豊かな学校生活の実現を目指す。</p> <p>イ. 生きる力の育成と心身のバランスのとれた人としての成長。</p> <p>ウ. 合理的かつ効率的・効果的な活動の推進。</p>	<p>ア. 体育系、文科系に関わらず、部活動に加入し3年間で得る目的意識を明確に持ち日々活動に参加することを心掛ける。</p> <p>イ. お互いの人間関係を良好に保ち、人間的成長を心掛ける。</p> <p>ウ. 時間を有効に使い、学習面との両立を心掛ける。</p>	<p>ア. 新入生の部活動加入率を80%、卒部率を90%以上とし維持していく。 ・文化系部活動の部員増加を目指す。及び活動の活性化。</p> <p>イ. 部活動における「達成感」を持たせる。</p> <p>ウ. 部活・学習の両方の目標結果を大切にす。特に高い進学実績を目指す。 また、数学甲子園への参加を目指す。</p>	<p>ア. 新入生の部活動加入率は78%、3年生の卒部率は91%を維持している。文化系部員数は23名増。(◎)</p> <p>イ. 学校生活アンケートから部活動について「普通」も含めて78%の生徒が肯定的回答であった。より充実した活動を求めていく。(○)</p> <p>ウ. 部活動生の進学実績は非常に高い数値を示している。数学甲子園は参加できていない。(○)</p>
<p>推進5 〔異文化理解と多文化共生の考え方を養う国際理解教育の推進〕</p>	<p>ア. 物価高騰、円安によるカナダ修学旅行、オーストラリア語学研修等の見直し。及び中学校、短期NZ留学の充実を図る。</p> <p>イ. 英語教育を通じ世界で活躍する人材の育成。</p>	<p>ア. 高校修学旅行、中学NZ短期留学、語学研修などの海外プログラムを通じて、英語学習への動機付けを行う。</p> <p>イ. 英語技能検定対策講座などのプログラムの充実を図り、学校全体として「使える英語力」の向上に努める。また、英検受験率をさらに上げる。</p>	<p>ア. 物価高騰・円安に伴いカナダ修学旅行の行先変更。各プログラムのアンケートによる「充実度」の回答を80%以上を目指す。</p> <p>イ. 英検受験者数延べ350名以上。及び合格者の増加。 ・第2回模擬国連金光大阪大会の開催。</p>	<p>サ. カナダ修学旅行は北海道に変更。肯定的な意見が98%であった。(◎)</p> <p>イ. 英検受験者数372名。2級合格15名。準2級合格34名。3級合格33名。昨年より合格者は若干減少。(○) ・2月に第2回模擬国連金光大阪大会。5校の参加を得開催。(◎)</p>
<p>6 〔教員の指導力向上〕</p>	<p>ア. 指導力向上のための研修開催。</p> <p>イ. 教科教授法の多角的な研究の推進。</p>	<p>ア. 学校及び法人レベルでの研修を通じ、教員が建学の精神を理解し、学園の教育方針に沿った指導力を向上させ、各種研修会、学校見学会に参加し教師としての力量を高める。</p> <p>イ. 校内研修の充実を図り、互いの教授法についての研鑽に努める。また、校外研修に積極的に参加し、教科教授法の多角的な研究を行うことで、授業力の向上を目指す。</p>	<p>ア. 学校評価アンケートの指標をA評価にする。また、各教科において研究授業を実施。「授業の工夫」、「話し方の良否」、「教材の工夫」に関する項目の肯定回答それぞれ4.2(80%)以上を目指す。</p> <p>イ. 全教科において研究授業を実施。生徒アンケート「授業の工夫」、「話し方の良否」、「教材の工夫」に関する項目の肯定回答それぞれ4.45(90%)を目指す。</p>	<p>ア. 学校評価アンケートは、残念ながら校外研修への参加時間が取れないことからB評価であった。改善をはからなければならない。(×)</p> <p>イ. 各教科研究授業は実施できた。また、授業の工夫、話し方等のアンケート結果は中学4.43、高校4.46と良好であった。(◎)</p>

<p>を生まない楽しい学校づくり) 7 (不登校生徒、学業不振による進路変更)</p>	<p>ア. 校内における居心地の良い場所の確保。</p>	<p>ア. 学年、保健室、教育支援室、スクールカウンセラーの連携を図る。生徒の情報を共有し居心地の良い場所を確保し、欠席、遅刻を減少させ学校生活を楽ませる。</p>	<p>ア. 転退学を防止し高い卒業率を目指す。</p>	<p>ア. 本年度は94%の卒業率であった。 (○)</p>
<p>8 (募集定員充足維持を目指した広報活動の展開)</p>	<p>ア. 特待制度の継続と検証 (一部見直し)。 イ. 部活動推薦制度の推進 (本年度より中学生募集導入)。</p>	<p>ア. 授業料無償化を見据えた特待制度の見直しを行う。 イ. 中学校募集に関しては、特待入試制度を設ける。本校の中高一貫で指導できる部活動に限り特待制度を設ける。</p>	<p>ア. 移行期間であるため、募集状況を確認しながら行う。また、昨年度を上回る生徒確保を目指す。部活動推薦での募集を増やす。 イ. 中学入試に関しては苦戦しているため、一人でも多くの入学者を得る。</p>	<p>ア. 例年と変わらない制度で募集する。結果120名の部活動推薦者を得た。 イ. 特待推薦を含め23名の入学者を得た。(○)</p>
<p>9 (人事政策と人件費等の抑制計画)</p>	<p>ア. 専任・準専任教員採用計画の実施。 イ. 物品購入や修繕等について必要性を精査。 ウ. 節約、節減の推進。</p>	<p>ア. 本校の採用基準に基づき、教職員の働き方改革につながるよう、専任・準専任教職員の採用試験を実施する。 イ. 物品購入については計画的に行い、判断については見極めを適切に行う。 ウ. 無駄な電気・ガス等の使用を控える。</p>	<p>ア. 各学年団構成を中学7名、高校各学年18名を基本とし、働き方改革に繋がる人員構成及び人事配置を行う。 イ. 前年度と比較し執行額の確認を行う。 ウ. 前年度と比較し使用数値の確認を行う。</p>	<p>ア. 予定通りの学年団構成及び分掌構成ができた。 イ. 計画的に執行できた。 ウ. 全教職員、生徒協力のもと達成できた。 (◎)</p>